タイトル	我が国の救急医療体制と 病院前医療体制の概要	消防機関における救急業務及び救急救命士制度に対する理解	MCの基本と運用の理解	救急救命士が実施する救命処置	WS:オンラインMC	MCに関わる関連法規に対する理解	WS:事後検証、症例検討会の方法論	WS:救急救命士等に対する教育	WS:MC及び指導医の今後の展開	局所災害時のMC
講師	細川先生　22枚	森川先生　83枚	横田先生　36枚	林先生　50枚	松岡先生	西田先生　52枚	定光先生　35枚	中田先生　24枚	中田先生　22枚	中山先生
テーマ	救急業務の対象と応急処置 救急病院等を定める省令 救急救命士法と応急処置の拡大 救急救命士法制定の趣旨 救急救命処置 非医療従事者によるAED 救急隊員のAED 救急隊の編成と特例 消防法改正（搬送・受入ルール） 協議会の組織と実施基準 実施基準 メディカルコントロール体制の確保 メディカルコントロール協議会 医療法における医療計画 現行の医療計画制度 医療計画の策定に係る指針 救急医療体制の体系 救急医療の充実 今後検討すべき事項と方向	消防組織の概要 消防の階級 広域消防応援、緊急援助隊 熊本地震における消防活動 緊急消防援助隊 救急業務の基本的情報 救急隊の定義、 救急業務と救急救命士 特定行為 救命士処置拡大 消防のMC体制（コア） 処置拡大とMC 救命士免許取得まで 救命士教育 指導救命士 救急業務の課題 緊急度判定 消防職員教育 救急科医師の役割 資料（救急業務あり方検討	病院前救護と救急診療 救急救命士法 救急救命処置 救命士処置範囲の拡大の経 医療関連行為とその実施者 MCのコア業務 プロトコル 堺地域MC協議会検証活動例 再教育カリキュラム 消防職員への教育 救急隊員教育 通信指令員教育 地域を俯瞰した体制作り 搬送と受入れの関係 病院選定の2要素 各段階における緊急度判定 各種評価シート PDCAサイクルによる改善 ORION MC体制の全体像	救急救命処置 救命処置のための資機材 各種救急救命処置 特定行為 救命士の処置範囲の経緯（除細動） その他の処置拡大 救命士の拡大処置 豊能医療圏の実態 医師の具体的指示 気道確保用器具の適応 救急救命処置の現状 特定行為の内訳 救命士有資格者 指示なし特定行為 救命士のキャリアパス プロトコル 傷病者基本プロトコル等 特定行為の直接指示につい プロトコル運用の問題点 救急隊活動に対する理解	スライドなし	法規の構造 憲法と法律の関係 法律と命令の関係 命令と告示の関係 救急救命士法の構造 救急救命処置の位置づけ 医師法 保助看法 医行為と診療の補助の関係 医療にまつわる法的責任	MC協議会の役割 事後検証 検証のためのガイドライン 検証医所見 活動記録/検証票 評価基準の統一 必須項目と評価 気管挿管の適応 各種病態の検証 検証実績 検証結果 気管挿管の動向 気管挿管の検証 ビデオ喉頭鏡 救命士による薬剤投与 薬剤投与実績 食道挿管への対応 薬剤投与の課題 救命士の業務拡大 事後検証の効果と課題 医療を取り巻く社会の変化	救命士資格取得 再教育の内容とその方法 再教育の対象とすべき項目 再教育の病院実習 病院実習中の問題点 再教育実習プラン	MC医師の業務 MCコア業務 コア業務の問題点の共有	スライドなし
必要項目	国レベルの救急医療体制につ	国レベルの消防業務について	地域MCに関する事項	救命処置に関する事項		MCに関わる関連法規	事後検証、症例検討会	救急救命士教育	MCおよび指導医の今後の展開	
考察	前回に比べて救命士に関するスライドが減少し、他講義と重複する部分がかなり少なくなった。ドクターカー等の病院前医療体制についての言及がなかった。	特定行為や拡大処置等については、「救命処置」という講義があるので、そこで実施した方がいいのでは。また消防職員教育はMCの講義と重複している。また通信指令員に関する説明の追加が望まし	MC協議会に関する説明はほとんどなかった。なおMCに関わる講義なので、他講義と多少重なる部分はあるが、仕方がないと考えられる。	救急活動記録に関する説明の追加が望ましい。また処置数などのデータは消防の講義での実施が望ましい。		MC体制での法的責任について、説明の追加が望ましい。	検証医師に関する説明の追加が望ましい。議論にあたっての事前説明は必要であるため、多少講義スライドと重なっているが仕方がないと思われる。	議論にあたっての事前説明は必要であるため、多少講義スライドと重なっているが仕方がないと思われる。生涯教育の指針や指導救命士についての説明の追加が望ましい。	グループディスカッション主体であり、問題ないと思われるが、救急科専門医についての説明の追加が望ましい。	不明
SBOの達成	B	B	A	A		B	B	A	A	A・B・Cの3段階評価（A：十分、B：やや不十分、C：不十
キーワードの収載	B	B	B	B		A	B	B	B	A・B・Cの3段階評価（A：十分、B：やや不十分、C：不十
SBO	1 救急医療体制○ 2 救急医療の現状の説明△ 3 病院前医療体制の歴史× 4 病院前での医師の関与×	1 消防組織と救急業務○ 2 救急出動体制○ 3 通信指令システムは指令員教育について言及しているのみ	1 MCの目的を説明できる○ 2 MCの体制を説明できる○ 3 MCのコア業務を説明できる○ 4 地域のMC体制について○	1 救急隊の処置○ 2 救急救命処置○ 3 特定行為○		1 法の構造の説明○ 2 救命処置の法的位置づけ○ 3 医療にかかる法的責任○ 4 MC体制での法的責任×	1 事後検証の方法論○ 2 検証医師に求められる知識△ 3 事後検証を実施できる△ 4 事後検証の現状を述べる△ （スライド内容からは評価不十分）	1 救命士教育・再教育○ 2 救急業務生涯教育○ 3 救命士教育の現状○ 4 病院実習の議論○	1 MCの現状と課題○ 2 MC医師の今後の活動○ 3 医師のMC研修○ （スライド内容からは評価不十分）	
キーワードについて	1 救急医療体制○ 2 医療圏× 3 初期・二次・三次医療体制○ 4 ドクターカー・ドクターヘリ× 5 救急救命士○ 6 病院前あり方検討会×	1 消防組織○ 2 救急業務○ 3 救急隊・救命士・指令員は救命士の説明が主体で指令員はほぼなし 4 救急隊の編成○ 5 出動件数・搬送時間○ 6 通信指令△ 7 口頭指導× 8 電話による緊急度判断○ 9 緊急度に応じた救急出動○	1 病院前医療○ 2 MC協議会△ 3 救急救命処置○ 4 プロトコル○ 5 指示○ 6 指導・助言× 7 検証○ 8 教育○	1 応急処置○ 2 救急救命処置○ 3 特定行為○ 4 救急活動記録× 5 具体的指示○ 6 包括的指示○		1 法規の構造○ 2 救急救命士法○ 3 法律○ 4 命令○ 5 告示○ 6 医行為・診療補助○ 7 刑事上の責任○ 8 民事上の責任○ 9 行政上の責任○	1 プロトコル○ 2 検証の標準化○ 3 救急活動記録○ 4 一次、二次、三次検証○ 5 フィードバック○ 6 検証医師×	1 養成課程○ 2 就業前病院実習○ 3 再教育病院実習○ 4 救急救命技術研修会○ 5 症例検討会○ 6 128単位○ 7 生涯教育の指針× 8 指導救命士×	1 MCの現状○ 2 MCの課題○ 3 MC医師○ 4 MC医師研修○ 5 救急科専門医×	
まとめ	スライドの内容については、一部の項目が講師間で重複しており、若干の調整の余地があると考えられた。SBOについては、達成率としてはかなり高いが、さらなる改善の余地があると考えらえた。キーワードはほとんどの項目が網羅されており、若干のスライド追加で必要なキーワードを網羅しえると考えらえた。									